

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ④子どもの発達理解

- ◆ 子どもは褒められることが大好きです。笑顔なら子どもは幸せなのです。この言葉が心に響きました。私の勤務するクラブは、子どもの自主性を重んじ、楽しいクラブを目標にしています。支援員とも情報を共有し、子どもたちとコミュニケーションをとり、信頼関係を築きながら、子どもたちの変化に目を配り、自分にとっても子どもたちにとっても楽しいクラブにしたいと思いました。
- ◆ 発達の特徴、発達過程を理解することにより、こどもの行動の背景や変化が捉えやすくなるということを学んだ。また、児童期では褒めたり、じっくり話を聞いたりするなどしていくことが大事だと学んだ。自分で計画的に生活することに向かう時期であるため、話をよく聞くようにしていきたい。子どもの行動をよく見て、何かあったら話を聞いて寄り添い、雰囲気なども大切にしたいと思った。一人ひとりと向き合う支援者を目指したい。
- ◆ 今回の研修で、児童期の生活と発達に大人との信頼関係が大きく影響することを深く感じました。それぞれの成長期に大人との安定した信頼関係と十分な生活保障の中で心が満たされ意欲が増すと、それに伴い個性豊かな人間性が育つと思いました。日々の中で子どもたちと接する時、心身の状態を把握しながら支援に努めたいと思います。
- ◆ 子どもの発達を理解する上で、身体の様子、言葉、表情、人との関係、置かれている環境に注意して接することが大切だと分かりました。このことが一人ひとりに会った育成支援に繋がると思います。また、しかるだけでなく、褒めることで子どもの感情を豊かにしていきたいと思います。さらに、子どもの言動の荒れは、助けを求めるサインでもあることを学びました。荒れた言動には、落ち着いて丁寧な対応をしたいです。
- ◆ 子どもたちと接する中で「～しなさい。」とってしまう時がある。児童期の発達の特徴において、このような言動は効果的でないことが分かり、反省している。子どもたちの思考や判断を否定するのではなく、聞き入れ、受け入れる姿勢を持つことが今の自分に足りない部分だと感じた。生涯発達とあるように、自身の肯定的な言動と思考が子どもたちの発達と人生へ大きく作用するというのを念頭に置き、子どもたちの支援に携わりたい。